

第2回下水汚泥有効利用勉強会を開催しました

滋賀県では、順次更新時期が訪れる汚泥処理施設について、職員の知見を深め、更新時における方式選定の参考にするため、汚泥有効利用についての新技术を勉強する場として、令和3年度から職員向けの勉強会を開催しています。

令和4年3月18日（金）に第2回勉強会を開催しましたので概要を報告します。

第2回勉強会は、汚泥処理技術の基礎と取り巻く状況について、また今後の新技术導入に向けて国の支援制度のあらましについて知識を深めることをテーマに開催しました。

岩崎琵琶湖環境部技監のあいさつの後「カーボンフリー時代における下水汚泥の処理・有効利用について」と題し、汚泥処理を巡る現状や様々な汚泥処

理技術の導入事例等について、日本下水道事業団技術戦略部の島田氏から講義を受けました。

次に「国の支援制度（応用研究・B-DASH）について」と題し、国土交通省下水道企画課の西郷課長補佐より、国交省が実施している様々な支援制度について採択技術の例を交えて講義を受けました。

最後に「B-DASHを活用した研究の進め方について～汚泥処理技術を例として～」と題し、国土技術政策総合研究所の松橋研究官から、B-DASHを活用して研究を進めるにあたっての留意点等について講義を受けました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためWEB開催としましたが、下水道課、南部・北部流域下水道事務所等から約20名が参加し、活発な質問が交わされました。



WEBによる勉強会の模様